

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100124		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム北花山		
所在地	京都市山科区北花山中道町109-12		
自己評価作成日	平成29年12月4日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail%2017_022_kani=true&dirvosyoCd=2674100124-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年夏か秋に、地域との交流を目的にお祭りを開催している。毎年たくさんの方が来てくださり、交流ができました。小さな事業所ですので、アットホームな雰囲気を大事にしています。だんだんと利用者様の介護度が上がり、なかなか外出が難しくなっていますが外にベンチも置き、天気の良い日は外で体操や日光浴などしています。地域との交流をめざし「元気クラブ」など催しに参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域との関わりを大切にしており、地域の高齢者が集う「元気クラブ」やカフェなどに出かけたり、毎年行うホームの秋祭りは幼稚園児から大学生までのチアダンスや腹話術、安来節などのボランティアの来訪や近隣商店には駐車場の協力も得られ、地域にも浸透し多くの方の参加を得て共に楽しみ交流が広がっています。利用者の重度化が進む中、全員での外出を継続したり、全利用者のできる事を把握し、調理や編み物、文字を書いたり、貼り絵などの手先を使う機会作り、利用者に好評なトランプなど、レクリエーションを工夫し楽しみや生きがいに繋がるよう支援をしています。また食べる事を大切にしており、お節料理や七草粥などの季節を取り入れ、家庭的な雰囲気の中で職員と共に談笑し食事を摂ったり、家族とのホテルでの食事会なども取り入れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に、ホーム独自の理念「その人らしい生活を支え、それぞれの力が発揮できる場所作りを目指します。」を玄関に掲げている。 また、理念についての研修・勉強会も受けている。	法人理念を基に作られたホーム理念をフロアの見やすい場所に掲示し職員が意識できるようにしています。毎月のカンファレンスや個別ケアを考える中で利用者ができることに携わり、その人らしく落ち着いて暮らしているか等を確認しながら理念の実践に繋げています。職員の入職時には理念の共有に向けて込められた思いを伝えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の催しに参加している。また、GHで年1回お祭りも開催し交流を図っている。	回覧板や運営推進会議で情報をもらい高齢者が集う元気クラブやカフェ等に参加したり、地域の祭りではホームの駐車場に御輿が来ており見学をしています。近隣の方が歌や体操等のボランティアとして来訪したり、ホームの秋祭りは準備した百食分の軽食が無くなる程多くの方の参加を得たり、近隣商店には駐車場の協力を得る等地域と良好な関係を築き交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座やお祭りでの交流などを通し、行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の職員・民生委員・ご家族・事業所職員が参加し、近況報告や認知症に関する話し合いなど行っている。	会議は家族や民生児童委員、元自治会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。利用者状況や行事、事故報告、職員の異動等を行い意見交換をしています。地域行事の案内を貰い「元気クラブ」等への参加に繋がったり、意見やアドバイスから会議のレジュメの改善や認知症サポート連絡会の取り組みに参加する等、運営やサービスに活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録を直接届けに行っている。	運営推進会議の議事録を直接役所の窓口に提出することで取り組み内容を報告し、分からない事は電話で問い合わせたり、法人の担当者を通して確認しています。行政職員の参加がある地域ケア会議に出席し情報交換したり、研修案内が届いた際は内容により職員が参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として、身体拘束の研修があり知識・意識の向上に努めている。参加できない職員には伝達研修を行っている。また、不適切なケアがあったときは互いに注意し合っている。 玄関の施錠はしておらず、利用者の行動を制限せず同行したり見守っている。	年に1度身体拘束に関する法人研修を受講し、ホームで全職員に伝達し周知に努めています。言葉による行動の制止や居室では利用者の行動を妨げない場所に車いすを置く事等を具体的に伝えています。家族の希望もあり安全に付き添うためセンサーマットを使用している方がおり、定期的に必要性を検討しています。また玄関の施錠は行わず、外に行く方には付き添うようにしています。	

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として高齢者虐待の研修があり、知識・意識の向上に努めている。参加できない職員には伝達研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として権利擁護の研修があり、知識・意識の向上に努めている。参加できない職員には伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、口頭で説明し確認しながら行い、同意ウを得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱やご家族への満足度アンケートを年1回行い意見を聞いたり、面会時にコミュニケーションを図り関係を築いている。	利用者の要望は関わりの中で聞き、意向に添うよう日々の支援に繋がっています。家族の意見は面会時に利用者の様子を伝え意見が無いかを聞いたり、運営推進会議の中や満足度調査も行われています。家族の意見を受けて玄関にパーテーションを設置したり、利用者と一緒に買い物に行き地域の方と交流できる機会を増やすなど意見を反映した取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスなど話し合う機会や個別に話をして意見などを聞いている。	職員の意見や提案は毎月のカンファレンスや申し送り、日々の業務の中で聞いています。職員は積極的に意見を出しており、ケアの方法などの意見は職員間で検討し決めたり、職員の提案を受け秋祭りに安来節や腹話術などのボランティアの来訪に繋がっています。また年に2回個別面談の機会や日々の中でも相談を受けることもあり、意見や相談をしやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に1度「自己申告書」や面談、年1回のアンケートなど行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画がある。外部の研修も参加しやすい体制である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加時に交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声をかけ、話してもらえやすいようにする。また、安心していただけるよう傍に寄り添い話を聞く。その中でホームでの過ごし方など生活が充実したものになるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話など、利用者の普段の様子を伝えるとともに、不安や要望を聞き安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談センターと管理者で面接を行い、本人と家族の思いを傾聴し、支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意とされていることを伸ばし、職員も一緒に行っていく上で、頼られる存在であることとともに支えあっていく関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し相談しながら、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話をしている中で、なじみの物や場所を知り、個別外出で出かけたりしている。	家族と共に孫などの来訪があり、居室に椅子やお茶などを用意しゆっくりできるよう配慮をしています。年に1度個別外出の機会があり、昔行っていた百貨店や住んでいた場所など、家族と相談しながら希望の場所に出かけています。また馴染みの人から年賀状が届くこともあり、職員と一緒に読み出し話などしています。	

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛け合い、部屋を行き来されたりとなじみの関係が築けている。席もなじみの方・話が合う方など考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方でも郵便物の転送等あった。いつでも相談していただけるような関係作りを目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションやご家族からの情報から、ご本人の意向を汲み取るように努めている。	入居時に本人や家族から生活歴や趣味、暮らしへの希望などを聞き意向の把握に繋げたり、以前利用していた事業所からも情報を得ています。暮らしの中では会話の中から思いや要望を聞いたり、意向に繋がる様子などは記録に残し共有しています。また思いの把握が困難な場合は改めて家族に聞いたり、関わりの中で本人の好きな事などを加味しながら推測し職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションやご家族からの情報から、ご本人の意向を汲み取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々で、情報を職員間で共有し利用者とかかわりながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に要望を伺い、どのように過ごしていきたいか相談している。Dr・Ns・職員にも意見を事前に聞きアイデアを出し合いながら計画作成している。	介護計画は事前に文書で確認した本人や家族の意向、医師や看護師の意見等を基に利用者の状況に合わせて3ヶ月、6ヶ月、1年の期間を設け作成しています。日々の記録や職員の意見を基に期間内に1度と見直し時にモニタリングを行い計画の実施状況を確認しています。見直しの際は再アセスメントを行い、カンファレンスを開き本人や家族の意向などを基に職員の意見を集約し見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録し、申し送りや管理日誌・連絡帳を通して共有している		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別で外出したり、買い物など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の元気クラブなどに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人および家族に決めてもらっている。かかりつけ医とは適宜連絡を取り合っている。	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝えています。現在は全員が協力医に変更し月2回の往診の他、体調の変化時等は随時往診を受けています。専門医への受診は書面や口頭で情報を伝え家族の付き添いとなっていますが家族が行けない場合や状態説明が必要な時は職員が同行しています。また訪問歯科や訪問マッサージは個々に合わせて診てもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護があり、その際に情報共有しケアにつなげている。また、Drへの取次ぎなども行ってもらい、スムーズな連携ができています。急変時も連絡を取り、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は病院の相談員と連絡を取り合い、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っている。重度化した際、主治医・看護師とご家族の話し合いを設け、チームで取り組めるように取り組んでいる。	入居時に看取りに関する指針を基にホームで対応できることや医療行為が発生した場合は対応が難しいことなどを説明しています。これまでに看取り支援の経験はありませんが、利用者が重度となった場合は看取り支援も視野に入れ家族と今後の方針について話し合いを重ねながら医師や訪問看護師のアドバイスをもらいホームで対応できる支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として、救命救急の研修があり参加している。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立会いの下避難訓練を行い、2ヶ月に1回、事業所内で災害に対する訓練等行っている	2ヶ月に1度行っている訓練の内、2回は消防署の立ち合いの下、昼夜を想定し通報や初期消火、利用者の避難誘導などを行い、独自ではコンセント周りの点検やスプリンクラーの操作方法などを行っています。運営推進会議で声掛けや報告を行い、併設事業所との協力関係を築いていますが、地域との協力関係については今後取り組む予定としています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー研修や、職員同士で気づきを注意・共有しながら尊厳を大切にしている。	年に1度法人の接遇やマナーに関する研修を受講し、ホームで伝達研修を行っています。日頃は居室に入る際はノックや声をかけたり、本人に分かりやすい言葉かけや声の大きさ等に留意し丁寧な対応を心がけています。不適切な言動が見られた場合は職員間でも注意をしています。また入浴介助等は希望があれば同性介助に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、本人が決定しやすい声かけや環境作りに勤めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは大まかにしか決まっていな い為、その日の気分や体調で臨機応変に対 応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びは利用者と共に行うようにしている。 日々の身だしなみも注意し、外出時には化粧などおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談しながら献立を決めたり、準備(野菜を切ったり盛り付け)や食器洗いなど職員と共にしている。	食材を見ながら献立を決め、時には利用者と一緒に買い物に行っています。調理の下拵えから盛り付けや後片付けまで利用者のできることに携わってもらい、家庭的な雰囲気の中で職員と共に食事を楽しんでいます。お節料理や七草粥などの行事食や家族に声をかけホテルでの外食などにも出かけています。また善哉や洋菓子などのおやつ作りも一緒に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別での食事摂取量や必要に応じ水分摂取量など記録している。献立は利用者と考えながらも肉と魚が偏らないようにし、食事形態も食べやすい形状・大きさにして工夫している。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと希望者は週1回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、排泄パターンをつかみ支援している。	排泄記録を参考に個々の排泄パターンを把握し、排泄のサインなども見ながら随時の声かけや誘導を行い、日中は全利用者がトイレで排泄できるよう支援しています。個々に応じた排泄用品の選択や支援の方法はカンファレンスや日々の中で職員の意見を聞きながらその都度検討し、失敗を減らし現状が維持できるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を活用し、排便パターンを知り下剤だけに頼らず、日中の運動や水分補給・ヨーグルトやオリゴ糖の摂取など対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっておらず、外出予定など考慮し支援している。また、好みの湯温・同姓介助・希望の時間なども考慮しゆっくり入っていただけるよう支援している。	入浴は毎日午後から準備を行い週に2回以上入れるよう支援をしています。入浴を拒否する方はほとんどなく入浴剤を用いたり、職員と会話を楽しみながら入浴できるよう支援をしています。また入浴時間や多く入りたいなどの希望があればできるだけ意向に添えるよう職員間で検討する予定です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子によって昼寝を薦めてみたり、部屋でゆっくり過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイリングし、すぐに確認できる状態にしている。症状等変化あればDr・Nsに相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々で得意なことで活躍できる場面を作れるよう支援している。		

洛和グループホーム北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マンツーマンでの外出を心がけている。個別外出も計画し、その方の希望に沿って出かけられるよう支援している。	気候の良い時は玄関先や広い駐車場で散歩や外気浴をしたり、近所の花壇の花を見ながら買い物等に行っています。年に1度は家族を誘ってホテルで外食したり、桜の花見や植物園、地域の高齢者が集う行事などにも参加をしています。また個別外出の機会があり、希望を聞きながら百貨店などに出かけています。重度の方も多く、工夫をしながら外出の機会を持てるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、個別で買い物を楽しんでもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、自由に使える状態である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるような飾りを季節ごとに行っている。狭いスペースの為圧迫感の無いように心がけている。	正月飾りや生け花など季節感に配慮をしたり、手作りの作品や楽しんだ行事の写真などを飾り、温かい雰囲気作りに努めています。気が合う方同士と一緒に過ごせるよう座席を配慮したり、ソファや廊下にベンチの設置や車いすの移動も考慮し、過ごしやすいよう限られた空間を工夫しています。日々の換気や掃除、エアコンの風向きなど利用者にも聞きながら室温を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースが狭い為、死角やひとりになれる場所がお部屋しかない状態。気の合う方同士テーブルを囲んだり、玄関横にベンチを置いたりちょっとした気分転換できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や小物を持参していただき、その方らしい空間になっている。	入居時に馴染みの物や大切にしていた物を持って来てもらうよう伝えています。愛用している筆筒や鏡台などの家具は家族と過ごしやすさを考えながら配置を決め、その後は身体状況の変化に合わせて安全に移動できるよう配置を変更することもあります。また好きな編み物などの道具や大切な位牌を持参する方もおり、安心して過ごせる居室となるよう配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所・居室に表札を掛け、分かりやすいように工夫している。		